

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.22)

# ハンガリーパビリオン

【基本設計】Zoboki Design And Architecture 【実施設計】株式会社 綜企画設計



ハンガリーパビリオンの特徴は、建築とランドスケープを融合させ、ハンガリーの神秘的な森林を表現したデザインにある。

木質化されたファサードを覆う「ひらひら」シェードは、木々の葉のゆらぎを表現し、建物奥に配置された螺旋状の「木リング」は、カルパチア盆地の干し草の山をイメージしている。



建物を覆うように取り付けられた「ひらひら」シェード

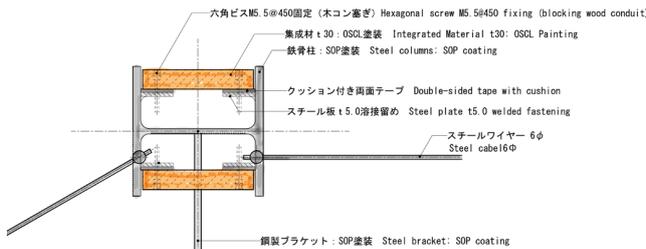
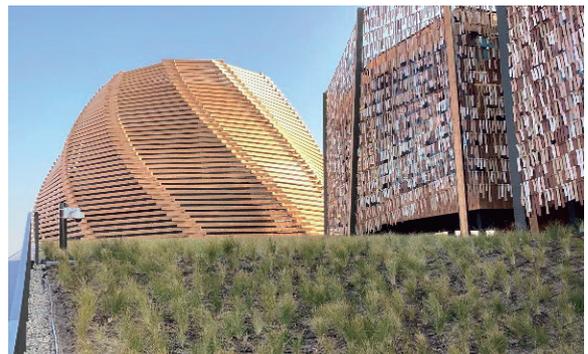
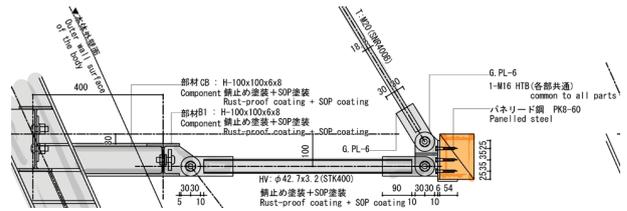


図-1 ワイヤー固定方法 (設計時)

外壁の周囲に建てられた鉄骨柱のフランジにワイヤーを設置しテンションをかける (図-1)。



イマーシブドームを取り囲む螺旋状の「木リング」



株式会社 UENOA architects 協力

図-2 木リング固定方法 (設計時)

木リングを支持するための鉄骨梁に、木リングの形状に合わせた下地金物を設置する (図-2)。



ワイヤーに取り付けられた短冊状tent素材の「ひらひら」



木材を螺旋状かつ円錐台に組み上げられた「木リング」

ハンガリーパビリオンは、ハンガリーの歴史と文化を肌で感じることができる体験型施設です。ドーム内では、幻想的な演出による没入感あふれる体験が楽しめるほか、「ミシュカキッチン&バー」では本場の伝統的なハンガリー料理を味わうこともできます。

当施設の適判審査は、(一財)日本建築総合試験所が実施しました。